

三方よし。SSC賀詞交歓会部会は、2024年1月5日の「精華町商工会賀詞交歓会」での発表に向けた活動を展開してきました。その活動にあたっては、部会協議、役員会・本会で議論と確認をする運営により活動内容を具体化してきました。次年度活動の具体化に向けた活用を含め、部会活動の充実に資すことを目指しつつ、部会活動の報告を次の通りとします。

活動報告 1

【令和6年度 賀詞交歓部会活動にあたっての考え方】 (2023.4.27 本会確認事項)

賀詞交歓会におけるSSCの会員事業者の発表については、事業所、事業展開（内容）、そして事業者（人）への理解を深め、ビジネス機会の創出、事業のマッチングなどに資することを旨とする。（行政・議会や各種団体を中心に、全商工会員に、PRする機会へ）

- 1 精華町商工会賀詞交歓会でのSSC事業者の発表については、**一体的な活動展開として商工会のタイムスケジュールに組み込み実施していただける様に対応する。**
 - (1) **各企業の発表を多くの人たちに聞いて頂ける様、環境づくりに努める**
 - (2) タイムスケジュール内に組み込む場合、SSC会員以外の商工会会員の発表も意識する
 - (3) 発表を聞かれた事業者等とのつながりが持てるよう、**連絡先などを付したものを用意するとともに、商工会事務局に問い合わせ等があった際、繋いでもらえるようお願いする**
- 3 **発表事業者は、SSC会員から自薦・他薦を問わず、また、地元事業者と学研企業等を、意識して選定する。**
- 4 《活動スケジュール》

月	項目	内容
4月	○ 2023年度活動認識合わせ ○ 発表者選出へ	・SSC（全体会議、役員会、部会）内 ・発表者発掘 自薦・他薦アンケート <裏面>
5月	○ 商工会三役・事務局対応 ○ 発表者確定へ	・タイムスケジュールへの組み込みについて ・全体会議で確定（役員会など報告の場合6月有）
6月	○ 発表者確定、 ○ 発表内容検討へ	・発表内容の検討と必要な部会サポート
7、8月	○ 発表内容の骨格づくり	・発表準備開始
9～12月	○ 事業者模擬発表	・発表内容公表とブラッシュアップ（全体会議の場と、部会活用）
1月	《令和6年賀詞交歓会発表》 ○ 発表について	・当日リハーサルと本番発表 ・成果と反省を議論
2、3月	○ 次年度へ向けて	・次期役員を選定、次年度方針検討 ※ 活動報告議論と本会確認～3月

【発表企業の選定と発表内容の骨格づくり】 (2023.5.23 本会確認事項)

《発表事業者の選定アンケートについて》

令和6年の賀詞交歓会部会の活動の考え方に基づき、発表事業者を選定するにあたって、自薦・他薦を問わず実施したアンケート調査の結果は、次の通りです。

アンケート調査結果（5/11 役員会以降、口頭報告あり）
回答 9件、自薦 0件、他薦 13件（重複あり）自由記述

《発表事業者について》

アンケート結果ならびに令和5年度活動の考え方を踏まえ、令和6年賀詞交歓会発表事業者は、次の通り二企業を確認した。

○ 吉田雄一朗さん まるよし建築

○ 平尾 俊貴さん 株式会社 dTosh



《発表内容の骨格づくりについて》

- (1) 賀詞交歓会発表者は、8月の全体会議で部会協議（9月全体会議で確認）をイメージして準備をお願いする
→ **示せるならば6月の本会（部会協議）でも可能。**
- (2) 以降、12月の全体会議で発表内容の確認が行える様、部会活動を実施する。
（部会協議・必要なサポート、役員会での確認など）
※なお、**各発表事業者の日常業務に大きな影響を及ぼさないよう発表事業者と連携して取り組む。**
→ **発表者と連携しながら協議して進める。**

《賀詞交歓会へ向けた取り組み》

活動報告2

- 発表事業者の選定にあたって
(学研企業と地元企業から、アンケートの実施)
 - ・今回のアンケートによる選定は良かった。
 - ・選定での優先順位 ①希望者②推薦③アンケート結果
 - ※アンケート結果重視が、発表者への強制にならないように留意・調整が必要
- 発表内容の検討について
 - (1) 発表者による骨格の提案と確認
 - ・次の2つのケースをはじめ、発表案づくりの方向性(パターン)を合わせ進めていく方法もいいのでは
 - i 早い段階から発表者の事業内容や、思いをきき、皆で考え作っていく「熟成ケース」。
 - ii 準備期間は、あまり不要で「鮮度と切れ味に重きを置いた」方が良いケース。
 - ・発表者の意思を確認しながら、求められることへのアドバイスをして、発表の骨格を先ず作り、その骨格にそって、具体的発表内容をつくり上げていく(まずは、発表者自身が)
 - ・発表者のタイプもあり、画一的でなく、その年度にマッチした進め方でいい。
 - (2) 骨格確認後の発表内容の検討・提案とブラッシュアップについて
 - ・発表者の骨格をみんな確認し、その骨格に添って、原稿づくりや、アドバイスを実施することで、発表の軸がブレない様にブラッシュアップすることは大切
 - ・今回は無駄なく適切にできていた。

《全体的に》

- (1) 準備活動について
 - ・その年度・年度で議論して作っていけば良いのでは。活動報告には次年度送りの課題があるが、「こうすべき」は不要で当年度の部会協議が重要。
- (2) 賀詞交歓当日の状況について
 - ・式次第で大きく印象が変わると感じた。
 - ・めちゃできる感じが良いのか、ちょっと野暮ったい感じがある方が良いのか、発表者のタイプによっても変わると思われる。
 - ・年度ごとに違った雰囲気になることも全く良いと思う。
- (3) 次年度に、引き継ぐもの。また次年度の課題について
 - ・座席等のレイアウトの検討、発表環境で大きく印象が変わることを引き継ぎたい。
 - ・個人的だが、司会進行、SSCの紹介共に「女性の声」の方が断然良いと思った。

《賀詞交歓会当日の取り組み(発表状況と発表環境)》

- 発表される3者の発表データの突合や修正・発表環境について
 - ・藤澤さんに頼る部分が多く、感謝とともに申し訳ない気持ちもある。
 - ・発表環境が以前と変わったことは大きい出来事であった。
 - ※ 部会内で役割分担などを協議し、パソコンでの突合・修正作業を実施する方が良いのではないか
 - ・司会者が商工会事務局ではなく会員(プロ)になったこと。
 - ・途中参加の議員の方も毎回予想されご挨拶等の時間が読みにくい。
 - ・ステージへの集中時間が長くあり、座席はもう少し必要。
(年配の方が多いため)
- リハーサルについて
 - ・限られた時間でしかできないので当日を想定したリハーサルが大事
 - ・開場が1時間前であり、リハーサル準備が出来た時にはすでに参加者がいた。
 - ・急遽、発表者データ以外の重たいデータ(ビデオデータ)が渡され、パソコンがフリーズして、リハーサルが結局できなかった
 - ※ 当日会場ではなく、商工会館を利用したリハも検討要
- 本会事業スケジュール内における企業発表の割りあて(順番)について
 - ・本会事務局の理解と協力、歓迎中ではない中でのプレゼンは、大きな出来事。
 - ・ご来賓をはじめ会場の人々が、ザワツクこともなく、しっかりステージに集中していただけたことで、発表内容を丁寧に伝えられる雰囲気が醸成されていたことは、大きな成果であった
- 発表3者の流れ(転換)について
 - ・今回の場合はプレゼン内容が奇をてらった事をしなくて個人的には好みだった。
 - ・雰囲気が「ええころあい」だったように感じる。

《その他》

- 会長のご挨拶、町長のご挨拶、代読者の方のご挨拶の雰囲気、議員の方が遅参して途中参加されることは例年の事である。例えばSSCの発表は画面のどこかに発表している時間(3分程度)がカウントされているだけでも他者とは差別化されるのではないか。(挨拶して頂いた方に嫌味にならないように注意は必要)
- 商工会事務局に出欠連絡をせず参加した会員が複数いたとの指摘あり。賀詞交歓会は商工会本体の行事であり、必ず出欠の連絡を商工会事務局にされたい。
- 活動報告をSSCのHPにアップするため、当日の写真の撮影提供をお願いしたい。